

令和3年1月29日

大竹市長 入山 欣郎 様

大竹市まちづくり基本構想策定審議会
会長 金谷 信子

大竹市まちづくり基本構想について（答申）

令和2年11月27日付け大総企第131号で諮問のあったこのことについて、当審議会で慎重に審議した結果、下記「1 修正すべき事項」のとおり修正することを前提として、別紙「大竹市まちづくり基本構想（素案）」を適当と認める。

なお、大竹市まちづくり基本構想（以下「基本構想」という。）の策定・推進に当たっては、下記「2 配慮すべき事項」の内容を配慮されるよう、意見として申し添える。

記

1 修正すべき事項

- (1) 1頁及び2頁に描かれた未来のまちの姿において、三倉岳や阿多田島、亀居城など、市民にとっても愛着があり、将来に渡って引き継ぐべき市の重要な自然・文化遺産の名称を、何らかの形で記すこと。
- (2) 基本構想は、未来のまちの幸せのイメージを市民と行政が共有し、協働でまちづくりを進めるための旗印となるものであることから、最終頁において、基本構想を新たなまちづくりの出発点として、より一層市民の主体的な関わりを促すようなメッセージで締めるよう、文言を検討すること。
- (3) 基本構想が示す未来のまちの幸せの実現に向けた具体的な施策は、基本構想を踏まえて策定する「大竹市まちづくり基本計画」（以下「基本計画」という。）で示す旨を、基本構想の最終頁に記載するとともに、市ホームページに掲載する基本計画の情報へのリンクを示すなど、基本計画の方向性や施策の内容を市民に周知し、関心を持ってもらえるような工夫を施すこと。

2 配慮すべき事項

- (1) 基本構想が示す未来のまちの幸せの実現に向けて、7頁及び8頁の「幸せづくりの未来宣言」で掲げるまちの将来像を、市民と行政が共有できるよう努めること。
- (2) 今後、基本構想に基づくまちづくりの中期計画となる基本計画を策定し、施策を実施するに当たっては、大竹市の強みや特色を生かした、大竹市ならではのまちづくりを、市民との協働で進めること。
- (3) 今後のまちづくりに対する意見を付する。当該意見に縛られるものではないが、参考にされたい。

今後のまちづくりに対する意見

- 基本構想は、概ね 30 年先を見据えて策定するものであり、30 年後には、現在 10 代の子どもたちが中心世代となってくるため、若い世代をいかに巻き込んでいくかが重要である。基本構想の理念を若い世代と共有し、議論に参加してもらい、考えてもらうための仕掛けを作りながら、「未来の大人世代」を意識したまちづくりを進めていってほしい。
- 基本構想の理念や掲げる将来像は素晴らしいと思うが、人口が減少していく中で、過度に明るい未来は期待できず、実現可能性があるとは思えないことから、これらを踏まえ、「選択と集中」による具体的な構想が必要と考える。例えば、「人工知能活用都市」、「起業家育成都市」、「教育特区を目指す」など、具体的な都市像があるとイメージしやすいと思う。
- 大竹市は日本の縮図のようなまちであり、長い年月をかけて住みよいまちが変わっていている。豊かな自然に加え、JR や国道 2 号、高速道路のインターチェンジ、港など、田舎でありながらインフラが整っており、大きな可能性を持っているが、まだまだ十分に生かされていないと感じる。市民の大切な財産である自然を将来に渡って守り受け継いでいきながら、社会資源を利活用したまちの魅力向上に取り組むとともに、市の特色をしっかりと情報発信し、多くの人に認知され、市外からも訪れたいくなるようなまちとなるよう取り組んでほしい。これらの取組が商工業などの発展などにも繋がり、「住んでみたいまち」にも繋がっていくと考える。
- その他個別分野に係る意見を、次のとおり示す。
 - ・ 晴海臨海公園などの総合的な機能を備えた施設は、まちの魅力向上に重要である。例えば商業施設と公園を、横断歩道ではなく空中歩道（ペDESTリアンデッキ）で結ぶなどして通行性・回遊性を向上させるなど、より魅力的なエリアとなるよう工夫・改善を行ってほしい。
 - ・ 栗谷などの中山間地域では、高齢化によって農業などの一次産業が厳しい状況が続いている。一次産業の発展はまちの発展につながると考えるが、市民や地域だけでは取組に限界があるので、行政も一緒になって支援してほしい。
 - ・ 子どもたちの安全を守り、安心して過ごせるまちでいられるために、IoT などの先端技術を活用した取組を行ってほしい。
 - ・ 街中にある公園は、夜は暗く、防犯上懸念があるため、外灯などにより人の有無が認識できる程度に明るくしてほしい。
 - ・ 中学生に「今後大竹市がどうなればよいか」と聞いたところ、「中学生や高校生が遊ぶところが少ない」との意見があったので、検討してほしい。
 - ・ 日々生活する中で、働く世代の負担が大きいと感じる。子どもや高齢者などには医療費の控除や助成があるが、全ての市民に平等に医療費が安くなればよいと思う。

以上